

「第1回 学ぼう 校長室の一服で」 ～ ちょうだいいたします ～

いよいよ明日は第2学期の終業日です。子供たちが元気に学校生活を送ることができたことに喜びを感じます。

先週は、「第1回 学ぼう 校長室の一服で」を行いました。今回のめあては、「お礼の気持ちをこめて、『ちょうだいいたします。』と言って、いただきましょう。」でした。

同じ学年の子供たちで学んだり、異学年の子供たちで学んだり、それぞれの場によって一服を味わう雰囲気の違い、私も楽しむことができました。

校長室で「ちょうだいいたします。」と言いながら、抹茶をいただいたので、緊張した子供が多かったようです。でも、校長室を出るときには、「のめた。」「苦かった。」「苦くなかった。」「お菓子が甘かった。」などなど、感じたことをつぶやいていたので、経験したことは良かったかなと感じました。いつの日にか、子供たちが相手への感謝の気持ちを「ちょうだいいたします。」と伝えられたら、「校長室の一服で」のねらいができた、うれしい気持ちになることでしょう。

ふりかえりシートに書かれた感想を数名紹介します。



「はじめて校長室でお茶をのみながら、心を伝えることは「ちょうだいいたします。」と言ってみて、思ったことを書いてみよう。

《1年》 きんちょうしたけど、いえでもいってみたいです。

《2年》 れいぎただしいことばをいうんだなあと思いました。「ちょうだいいたします。」といったとき、とてもいいきもちになりました。

《3年》 「ありがとう。」という言葉の意味も入っているんだなあと思いました。

《4年》 初めての校長室で、そのことばを言って、礼儀さほうを知れたと思います。自分のためにお茶をたててくれて、ありがとうございました。

《5年》 心の中でやさしい感じがしました。昔の言葉みたいな感じがしました。

《6年》 心をこめてたてられていて、それに心を伝えるために「ちょうだいいたします。」と言えました。